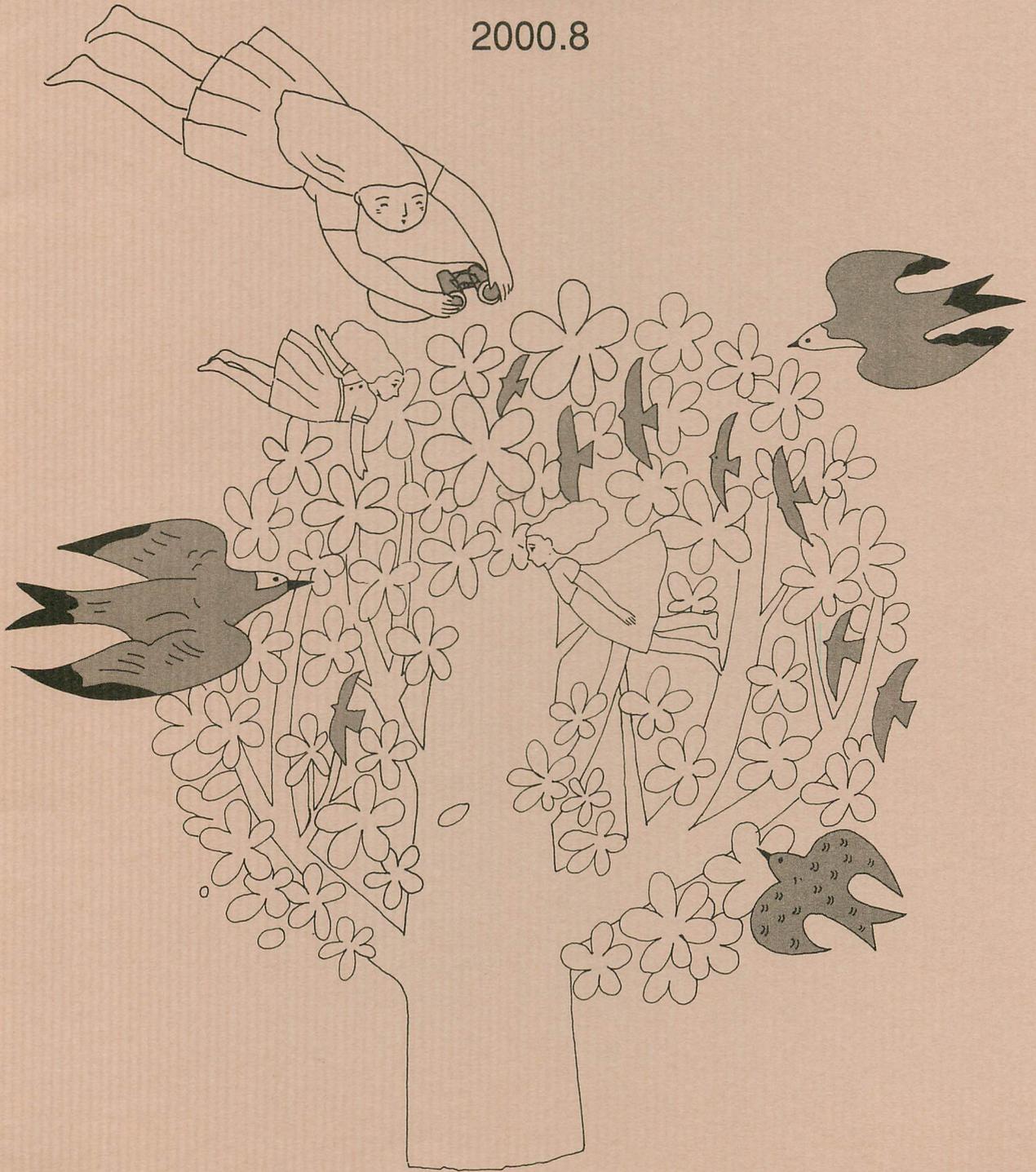


60号

愛鳥教育

2000.8



全国愛鳥教育研究会

愛鳥教育 No.60
2000.8

目 次

実践報告		
地球と遊ぼう'98		
in 都立水元公園 -----	小野紀之	3
アフリカの草原は		
ウシ (?) の宝庫 -----	箕輪多津男	22
もりまき通信(10)		
同じ名を持つ生き物たち		
(その2) -----	森 真希	24
	平成11年度 事業報告 -----	箕輪多津男 28
	平成11年度 収支決算報告 -----	箕輪多津男 29
	会長人事のお知らせ -----	29
	後援行事の御案内	
	『学校ビオトープシンポジウム in 中部』 ----	30
	編集後記 -----	31

地球と遊ぼう '98 イン 都立水元公園

—地球にやさしくしていますか—

「地球と遊ぼう '98」実行委員会委員長、常務理事 小野紀之

以下は、1998年12月13日（日）に実施した標記のイベントの経過について取りまとめたものです。地域の各団体や行政機関と協力連携して実施する自然観察会の在り方を模索したものです。

地球と遊んだ仲間たちへ

この企画を思いついてから1年半の歳月が過ぎ、その間特に実現のための準備をしていたわけでもありませんでした。しかし、ことあるごとにこの企画の話をしていたように思います。

やがて果樹の実が熟すように、この企画もその時期を迎えたのか、その香りに寄せられた人たちの協力で結実することができました。

いざ実施の日が決まると、それからは多忙な日々の連続で、当初頭に描いていた数十分の一も実現できませんでした。でも、多くの人や団体、そして行政の協力により、当日会場を訪れた人たちに遊びを通じて、環境のことを考えるきっかけ作りができたと思っています。

タイトルの「'98」が「'99」「2000」……と続くよう、これからも今回の活動を支え、応援してくれた仲間たちとがんばっていきたいと思います。

ご支援、ご協力をいただいた個人、団体のみならず、そして、いしよに汗を流してくださったスタッフのみなさまに心より感謝申し上げます。

実行委員長 小野紀之

1. 企画主旨

従来の自然観察や環境体験型ゲームの枠にとらわれることなく、遊び感覚の環境イベントとして、公園に遊びに来た人たちが気軽に参加できる内容を心がけました。また、開催時間内であれば、どのポイントからでも自由に参加できるようにしました。

特に、公園の特性と季節を考慮し、体を動かしたり、自然にあるものを教材としたプログラムで、環境について考えてもらうきっかけ作りに重点を置きました。

そして、もうひとつの大きな特徴は、単一イベントではなく、当日の参加賞である野鳥ぬりえを使った展示会の開催という「点から面」の展開にし、この日をきっかけに何度か足を運んでいただけるよう

な構成にしました。

2. 実施概要

開催日 1998年12月13日（日） 天候：晴れ
 開催時間 10:00～16:00
 会場 都立水元公園（東京都葛飾区）
 主催 「地球と遊ぼう '98」実行委員会
 共催 水元公園緑の相談所
 全国愛鳥教育研究会
 後援 東京都
 協賛 葛飾区
 高砂エコクラブ
 ジュニアアドベンチャークラブ拓海会
 (社)東京都建築設備設計協会
 (財)日本鳥類保護連盟
 東京都環境学習リーダー連絡会

3. 実施状況

当日一般参加者数 ----- 約 300 名
 最終ポイントでの参加賞受領者 ----- 約 130 名
 ぬりえ展示会申し込み者 ----- 57 名

4. その他

○準備スケジュール

1998年11月28日（東京都環境学習センター）
 12月5日（ ）
 12月12日（ ）

このほかに緑の相談所、葛飾区、東京都との打合わせなどがありました。

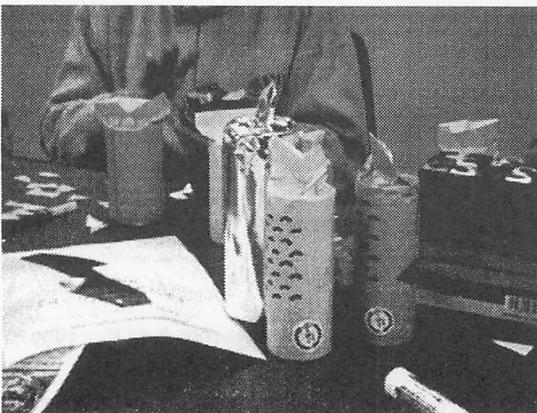
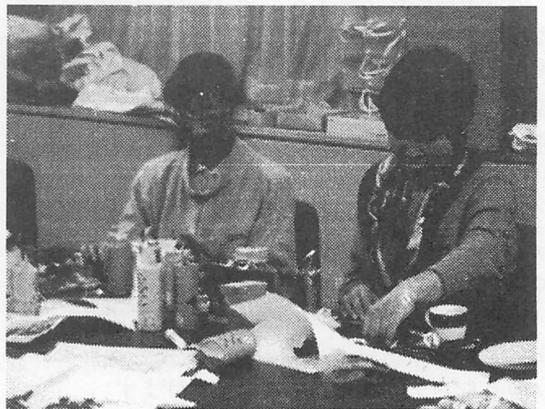
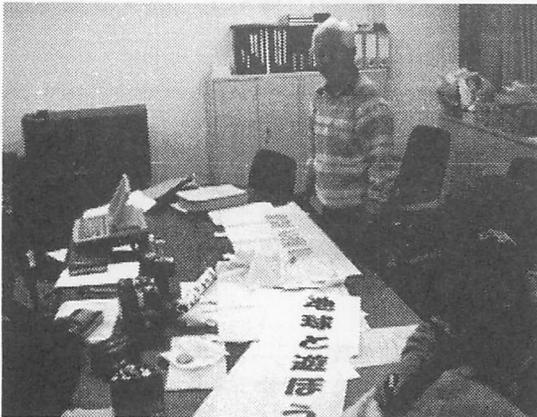
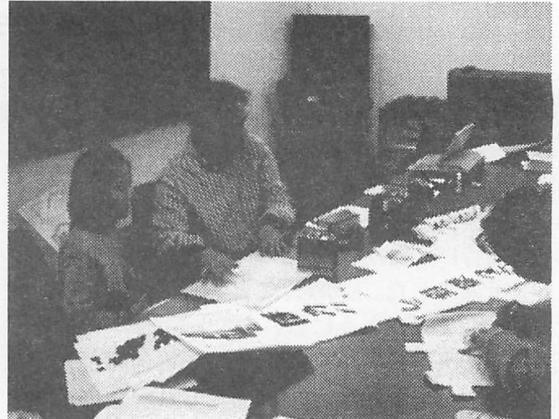
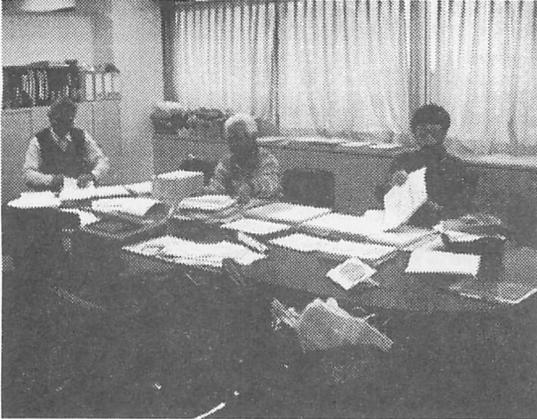
○広報活動

- ・「緑の相談所だよりNo.43」1998年12月・1999年1月号
- ・「広報東京都 第632号」1998年12月1日付
- ・朝日新聞「マリオン」1998年12月10日付 アウトドアコーナー

● 東京都環境学習センターでの準備風景

11月28日、12月5日、12月12日の3日間、今回の活動に賛同してくれた環境学習リーダーが準備作業に参加してくれました。

スケジュールの関係で当日参加できないリーダーで、準備のみに参加し、まさに縁の下の力持ちとなってくれた人もいました。



● 実施当日参加スタッフ



総括責任者	小野
参加マップ配布	(午前) 福岡、渡辺、相原 (午後) 福岡
ポイント1	(午前) 島田、清水(正)、原、河野、清水(在) (午後) 島田、清水(正)、山崎、相原、小沢、小林
ポイント2	(午前) 大堀、小林、小沢、桑原 (午後) 大堀、渡辺、河野、清水(在)
ポイント3	(午前) 染谷、岡本、山崎 (午後) 染谷、大橋、桑原、原
ポイント4	(午前) 中野、大橋 (午後) 中野、岡本

注) 太字はそれぞれの責任者

- ・ FMかつしか「かつしかインフォメーション」
12月7日～11日午前・午後各1回 計10回放送
- ・ (社)東京都建築設備設計協会にて、会員各社に「お知らせ」として配布
- ・ その他、チラシ設置、ポスター掲示

○費用

消耗品制作費、搬入車ガソリン代、交通費、保険料などほとんどの費用は、参加スタッフのカンパによって賄われました。
ただし、その費用の一部については下記の3団体

よりご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

全国愛鳥教育研究会	5000円
エコ・ブレインズ・システム	5000円
環境学習研究会	5000円

また、参加賞品などについては、東京都環境学習センターよりご協力をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

注) エコ・ブレインズ・システム、環境学習研究会は、どちらも東京都環境学習リーダー修了生で組織されたボランティアグループです。

■ ポイント1. あそびの森

公園入り口に近いメインストリートに隣接したポイント。当日の公園来園者へのPRを兼ねて、目立つような自然体験の遊びやゲームを展開。



・カンカン魚釣り

アルミ缶とスチール缶でできた魚を磁石で釣り上げる遊び。そのうち、子どももその謎に気づき、そこで分別の大切さを解説。

このほかにも当日、そこにある自然の素材・枯葉を使って、同じ形の枯葉を探してくる「枯葉かるた」なども実施されました。



・木はだでピカソ

また今度遊びに来たときに、この前の木はどうなっているかな。1本の木に愛着を持ち、その木から季節の変化を感じてもらえたらと思い、自分の木を拓本として持ち帰ってもらいました。



・くもの巣あそび

自分たちがチョウなどの昆虫になったつもりで、ひもでできたくもの巣に触れないようにくぐり抜けるゲーム。家族みんなが協力して、大人も真剣にやってくれました。自然界ってきびしいんだね。



・カモフラージュゲーム

自然観察をしようと思っても、鳥や虫がなかなか見つからない。もしかして家のまわりにはもう何もいなくなってしまったのかな。いいえ、生きものたちは、外敵から身を守るために自然の中にとけ込むような色をして、生活しているのです。そんな生きものたちの知恵をゲームで知ってもらおうと共に、じっくり見ることの大切さを理解してもらいました。

■ ポイント2. ゲーム & 工作広場

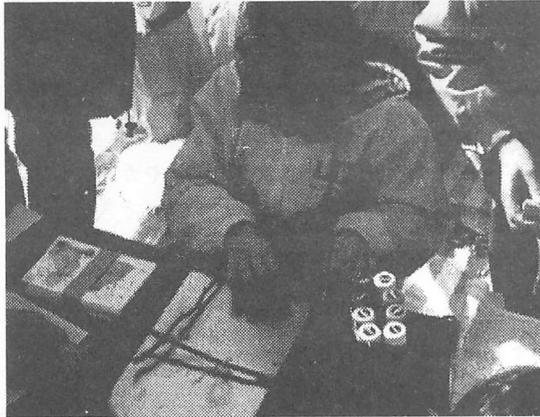


なだらかに広がる芝生広場の一角で、全身を使って双六ゲームをしたり、落ちている枯れ枝で工作教室を開催。とにかく多くの人が集まってくれました。



・巨大めぐりん双六 & めぐりんゲーム

ごみのことを、ゲームを使って遊びながら学べるめぐりんキット。巨大双六をメインに、周囲では順番を待つ子どもたちが、めぐりんカードやめぐりんビンゴで遊んでいました。少しはごみのこと、わかってくれたかな。



・工作教室

自然の素材、特にこの季節には枯れ枝や枯葉がいっぱい。それら自然の温もりいっぱいの材料で、フォトフレームや貼り絵を作りました。子どもはもちろん、大人の人たちにも大人気でした。

使い終わったら、自然に帰る素材ばかり。資源の有効利用と自然とのふれあい、あえてそんな解説はしませんでした。子どもたちには、貴重な原体験になったことを願っています。



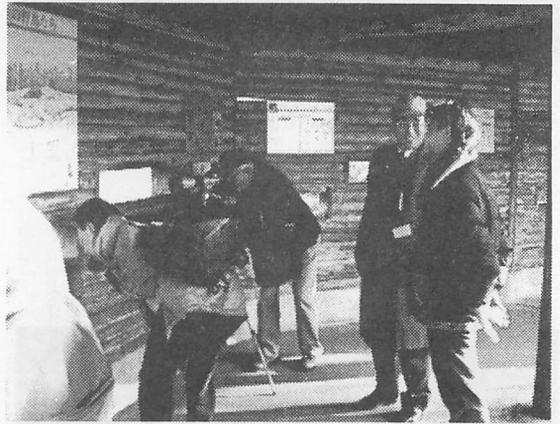
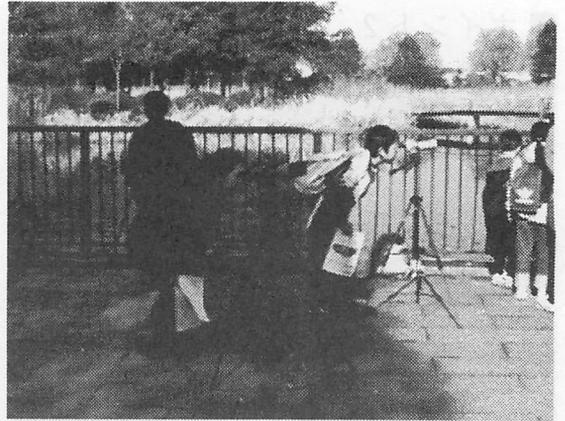
■ ポイント3. 水辺のサンクチャリ

冬の水辺で羽を休める野鳥たち。その姿をじっくり観察。おまけに、その水辺の水までチェックしました。私たちの生活と切っても切れない水。そして、その水に触れて生活する水鳥たち。自然のつながりを再認識してみました。



・身近な水質チェック

野鳥のすむその池の水を、参加者といっしょに検査してみました。水の大切さを知ってもらうと共に、水を汚さないよう家庭排水への配慮という意見が参加者からでてきました。



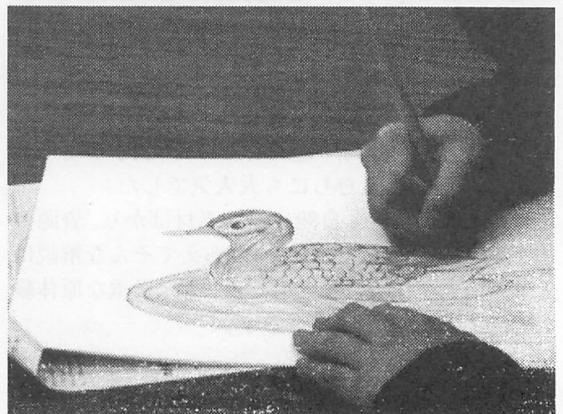
・バードウォッチング

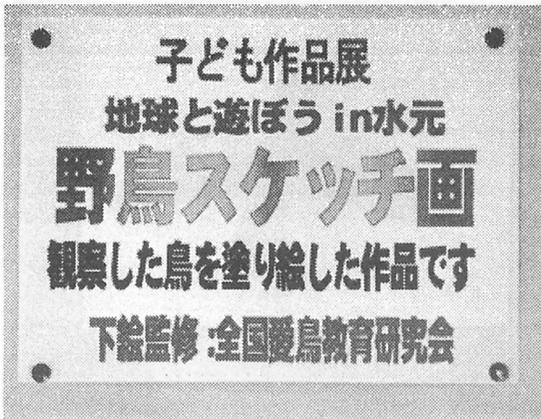
バードサンクチャリでは、カワウやカモの仲間、サギの仲間、そしてカワセミまで観察できました。

■ ポイント4. 緑の相談所（最終ポイント）

今日の最終チェックポイント。ひとつでも他のポイントでチェックを受けてここに来てくれた人たち全員に、参加賞として「野鳥ぬりえセット」などが

プレゼントされました。その場でさっそくぬりえにチャレンジする親子も大勢いました。





展示申し込み受付

1998年12月13日～1999年1月7日

展示期間

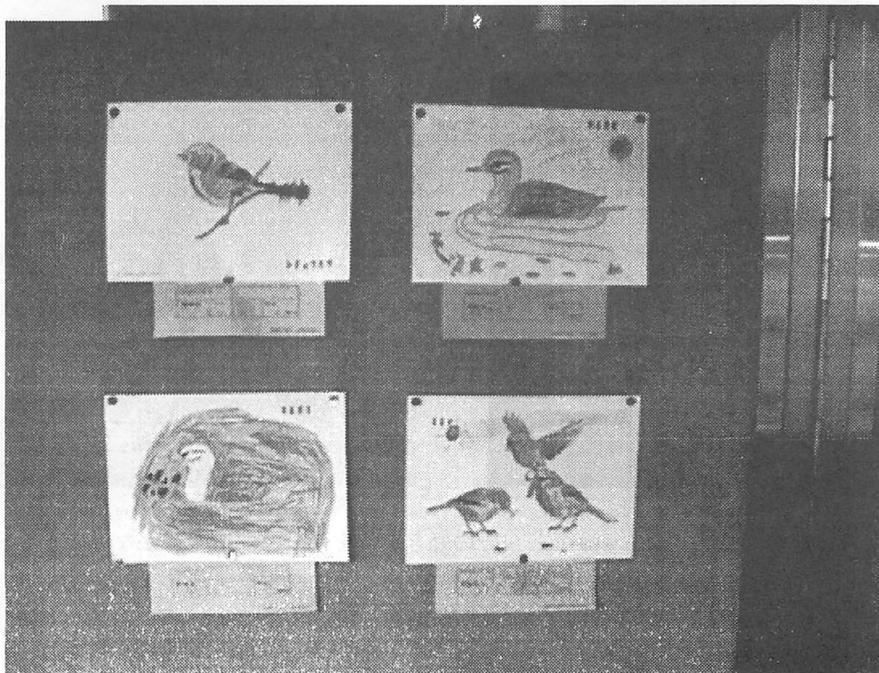
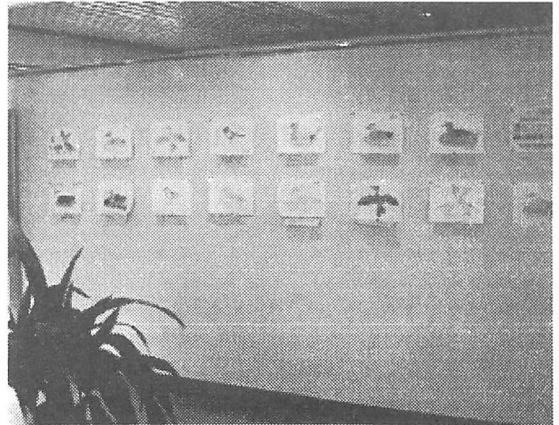
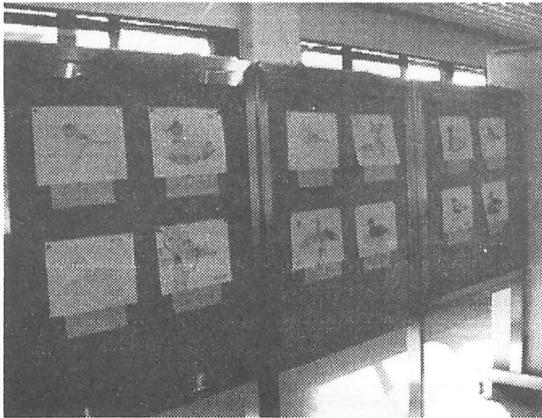
1998年12月15日～1999年1月17日

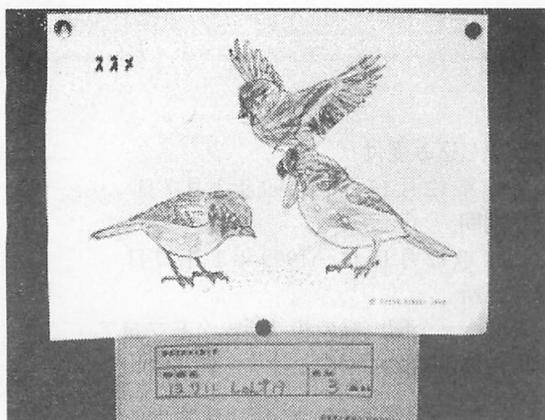
展示場所

都立水元公園 緑の相談所 2Fフロア

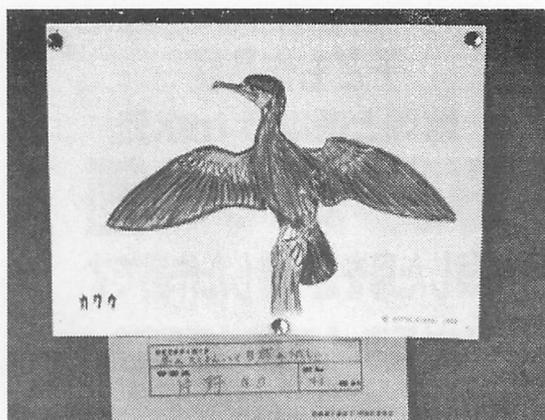
期間中展示総数

57点

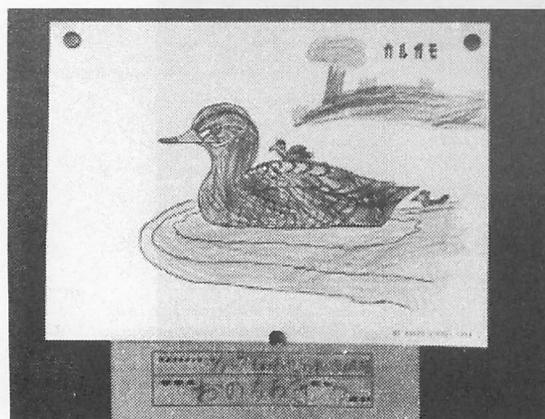
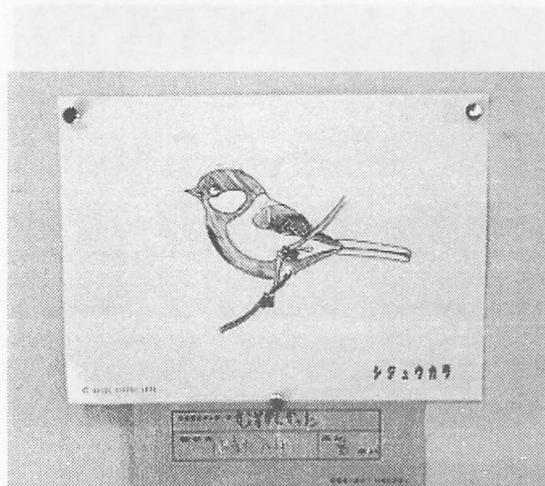




最年少応募作品 3歳の男の子



最年長応募作品 43歳女性



作品は、観察力に富んだりリアルなものから、自分の好きな色を使った創造力豊かなものまで、楽しいものばかりでした。

〔資料〕

1. 企画書

地球と遊ぼう '98 in 都立水元公園

ー地球にやさしくしていますかー

日 時 1998年12月13日(日) 10:00～16:00
場 所 東京都葛飾区都立水元公園
総合受付 水元公園緑の相談所
参加費 無料
参加対象者 水元公園来園者すべてが対象

公園全体を大きな環境テーマパークに設定して、当日訪れた人たちに各所で直接、『スタンプマップ』を配布。それぞれの興味や関心に応じて、自由にポイントを訪ねてもらい、遊びを通じて体験、環境問題に関心をもつきっかけにしていきます。

それぞれのポイントでは、自然観察、バードウォッチングやネイチャーゲームなどをごく自然な形で体験し、身近な自然への関心を高めてもらいます。また、池の水や水生生物を通じて生活排水、水のリサイクルを考えてもらったり、日常何気なく出しているごみへの関心もゲームを通じて高めていきます。

このように何かを教えるのではなく、自分たちが参加した中から感じてもらうことに重点を置いています。すべて遊びを通じて、気軽に体験してもらえます。自然環境、都市環境の垣根を越えて、広く環境に関心を向けてもらうためのきっかけとしています。

当日の運営、指導をはじめ、準備は東京都環境学習リーダーをはじめ、地域で活動しているグループのスタッフが中心となります。

イベントとしては1日限りのものですが、当日興味を持った人たちの今後の活動をフォローしていくためにも、地域グループのメンバーに運営に参加してもらい、地域メンバーを前面に出していきます。

そして、今回を初回として、今後毎年、各地で継続して実施していく予定です。

当日、今回のイベントに参加するために訪れたお客様、普通に公園に遊びに来ている人たち、特に親

子連れへ、公園入り口、公園内各所にプラカードをもってスタンバイしたスタッフ、ポイント駐在スタッフが参加証(公園内の体験ポイントが書かれたスタンプマップ)を配布し、参加を呼びかけます。

参加証をもらった人たちは、自分の好きなように、好きな場所を自由に回ることが出来ます。子ども連れでも他の参加者に気をつかうことなくいっしょに楽しんでもらえます。

各ポイントのスタッフは体験終了後、参加証にスタンプを押し、次のポイントを案内します。また、時間のない人には、緑の相談所で参加賞(野鳥ぬりえセット)がもらえることを案内します。

緑の相談所では、総合受付としてポイントの案内や参加賞の配布をするほかに、室内で子どもたちにぬりえをやってもらうことも出来ます。

スタンプポイント4ヶ所(予定)

○水先公園入り口近くの林

公園来園者へのPRを兼ねる。枯れ葉の積もった土の上で自然に親しんでもらいます。

○芝生広場

広大でなだらかな芝生の広場で、おもしろい身体を動かして遊びながら環境に関心をもたせるゲームで楽しんでもらいます。

○バードサンクチャリ付近の水辺

野鳥観察をはじめ、自然観察を楽しみます。

○緑の相談所(ゴール)

室内でゲームやぬりえを楽しんでもらいます。(ぬりえの当日受付も行います)

1ポイント1アクティビティではなく、ポイント周辺でスタッフのアイデアによる複数のアクティビティを体験できるようにしてあります。

完成したぬりえは、応募集(セット内に同封、小学生以下対象)とともに緑の相談所に持参、提出してもらいます(応募期間、別途参照)。

応募されたぬりえは、緑の相談所内に展示します。応募多数の場合は、期間中に入換えを行います(展示期間、別途参照)。

1回でも多く同公園を訪れ、親しんでもらえるよう上記のような展開を考えています。

スタッフ準備、打ち合わせスケジュール

11月28日(土)10:00～ 東京都環境学習センター
12月5日(土)10:00～ 東京都環境学習センター
12月12日(土)10:00～ 東京都環境学習センター

当日(12月13日)進行スケジュール

8:00 スタッフ集合、準備、最終打ち合わせ
9:50 参加証(スタンプマップ)配布開始
公園内各所
10:00 アクティビティスタート
スタンプポイント4ヶ所(予定)
15:00 参加証(スタンプマップ)配布終了
16:00 ポイント解説終了、スタッフ撤収
16:30 参加賞(野鳥ぬりえセット)配布終了
17:30 スタッフ懇親会(自由参加)

野鳥ぬりえ応募期間

平成10年12月13日～平成11年1月7日まで
(9:30～16:30、月曜日および12月28日から1月3日の休所日は除く)
於 水元公園緑の相談所

野鳥ぬりえ展示会開催期間

平成10年12月15日～平成11年1月15日まで
(9:30～16:30、月曜日および12月28日から1月3日の休所日は除く)
於 水元公園緑の相談所

主催 「地球と遊ぼう'98」実行委員会

東京都環境学習リーダー18名(11月7日現在)
委員長 小野紀之(1期生)
副委員長 福岡清治郎(2期生)
副委員長 島田親吾(4期生)

共催 水元公園緑の相談所
全国愛鳥教育研究会

後援(予定)東京都

葛飾区
都立水元公園管理事務所

協賛(予定) みずもと自然クラブ
高砂エコクラブ
ほか 葛飾区内活動団体
東京都環境学習リーダー連絡会
東京都鳥獣保護員協会
(社)東京都建築設備設計協会
(財)日本鳥類保護連盟

* 協賛各団体は、日頃より環境学習の普及啓発に積極的な活動をされている団体で、当日までの参加呼びかけ等でご協力をいただける団体です。

今回の運営は、東京都環境学習リーダーを中心にすべてボランティアによって運営されています。また、準備、運営等の費用は、東京都環境学習リーダー有志のみなさまによるカンパによって賄われています。

2. 実行委員会名簿

実行委員長 小野紀之
副委員長 福岡清治郎 島田親吾
委員 大堀由紀子 染谷優児* 中野登美
清水正也 山崎久夫 渡辺美砂
原陽司 相原孝一 小澤敏昌
河野順一 清水在三智 小林晶子
桑原玲子 大橋春男 岡本嶺子*
以上18名は当日スタッフとしても参加
川崎鎮男 下島寛 後藤美帆
山本晃 吉田早苗 木村幸一郎
松田美和子 市原みずよ 梶谷重雄
町井壽子 谷木収 江袋島吉*
平田寛重* 箕輪多津男*

計 32名

順不同・敬称略

*印は全国愛鳥教育研究会、無印は東京都環境学習リーダー(兼任あり)

このほかに、

水元公園緑の相談所所長 吉田敏雄様
葛飾区水と緑の部環境計画課 山田光久様
東京都環境学習センター 三上剛司様、国吉良輔様
東京都清掃局ごみ減量総合対策室

各所職員のみなさまにご協力いただきました。
ほんとうにありがとうございました。

3. 後援、協賛承認文書（コピー）



10環環計第781号

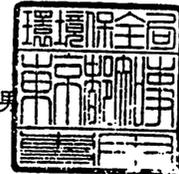
平成10年12月1日

「地球と遊ぼう'98」実行委員会

実行委員長 小野 紀之 殿

東京都知事

青島 幸男



東京都後援名義の使用について（承認）

平成10年11月20日付けで申請のあった標記の件については、下記により承認します。

記

1 東京都後援名義の使用を承認する行事

- (1) 行事名 地球と遊ぼう'98 in 都立水元公園
- (2) 実施時期 平成10年12月13日（日）
午前10時00分から午後4時00分まで
- (3) 場 所 都立水元公園（葛飾区）

2 公園名義使用承認の条件

- (1) 東京都は、この行事に要する費用は負担しません。
- (2) 東京都後援名義使用の印刷物等を作成する場合は、事前にその原稿を東京都環境保全局環境管理部環境計画室に届け出てください。
- (3) 行事計画に変更があった場合は、直ちに届け出てください。
- (4) 行事終了後、速やかに結果の概要を文書により報告してください。
なお、東京都において必要と認めるときは、東京都後援名義の使用状況について報告を求めることがあります。
- (5) 行事の実施上、東京都後援にふさわしくない行為があったときは、この承認を取り消すことがあります。

（以上）



10葛水計第170号
平成10年12月2日

「地球と遊ぼう'98」実行委員会
実行委員長 小野 紀之 様

葛飾区長 青 木



承 認 書

平成10年11月26日付けで申請のあった件については、下記のとおり承認いたします。

記

- 1 事業名 「地球と遊ぼう'98イン都立水元公園」
- 2 事業内容 申請のあった企画書のとおり
- 3 使用承認名義 葛飾区協賛
- 4 使用承認期間 承認の日から当該事業終了まで
- 5 承認の条件等
 - (1) 事業を営業目的、政治目的又は宗教目的に利用しないこと。
 - (2) 協賛名義を申請目的以外に使用しないこと。
 - (3) 事業計画に変更があった場合には、直ちに届け出ること。
 - (4) 事業終了後、速やかに結果報告書を提出すること。
 - (5) 使用承認期間中、協賛にふさわしくない行為があった場合は、直ちにこの承認を取り消す。

10東設協第6号

平成10年11月26日

「地球と遊ぼう'98」実行委員会

実行委員長

小野紀之様

社団法人東京都建築設備設計協会
会長



「地球と遊ぼう'98 in 都立水元公園」に対する
協賛名義使用許可申請について（承認）

拝啓 落葉の候ますますご健勝のこととお喜び申しあげます。平素より当会の
事業・活動等に対しましてご理解・ご協力を頂き、ありがとうございます。

この度、ご依頼のありました、協賛名義使用許可につきましては、これを
了承致しましたので通知いたします。 敬具

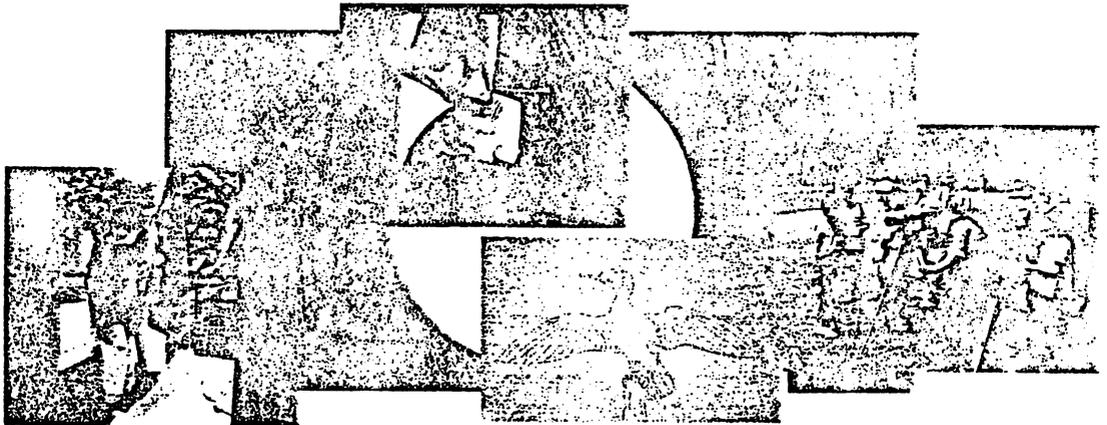
4. ポスター (A3サイズより縮小)

主催 「地球と遊ぼう'98」実行委員会

地球と遊ぼう'98 水元公園

地球にやさしくしていますか

寒さなんかに負けないで、みんなでいっしょにいい汗かこう。
 遊び相手は、なんてたって地球なんだから。
 いつもの公園が、ゲーム広場や運動場、バードウォッチングコースに
 大変身。
 サッカーやマラソンのついででも大かんげい。
 家族そろって、友だちさそって、みんなで参加してネ!!!
 参加者には、「野鳥ぬりえセット」がプレゼントされます。



開催日：98/12/13 (日)
 開催時間：10:00~16:00
 会場
 都立水元公園内 (総合受付：緑の相談所)

・当日、参加してスタンプをあつめると
 もれなく「野鳥ぬりえセット」がもら
 えます。

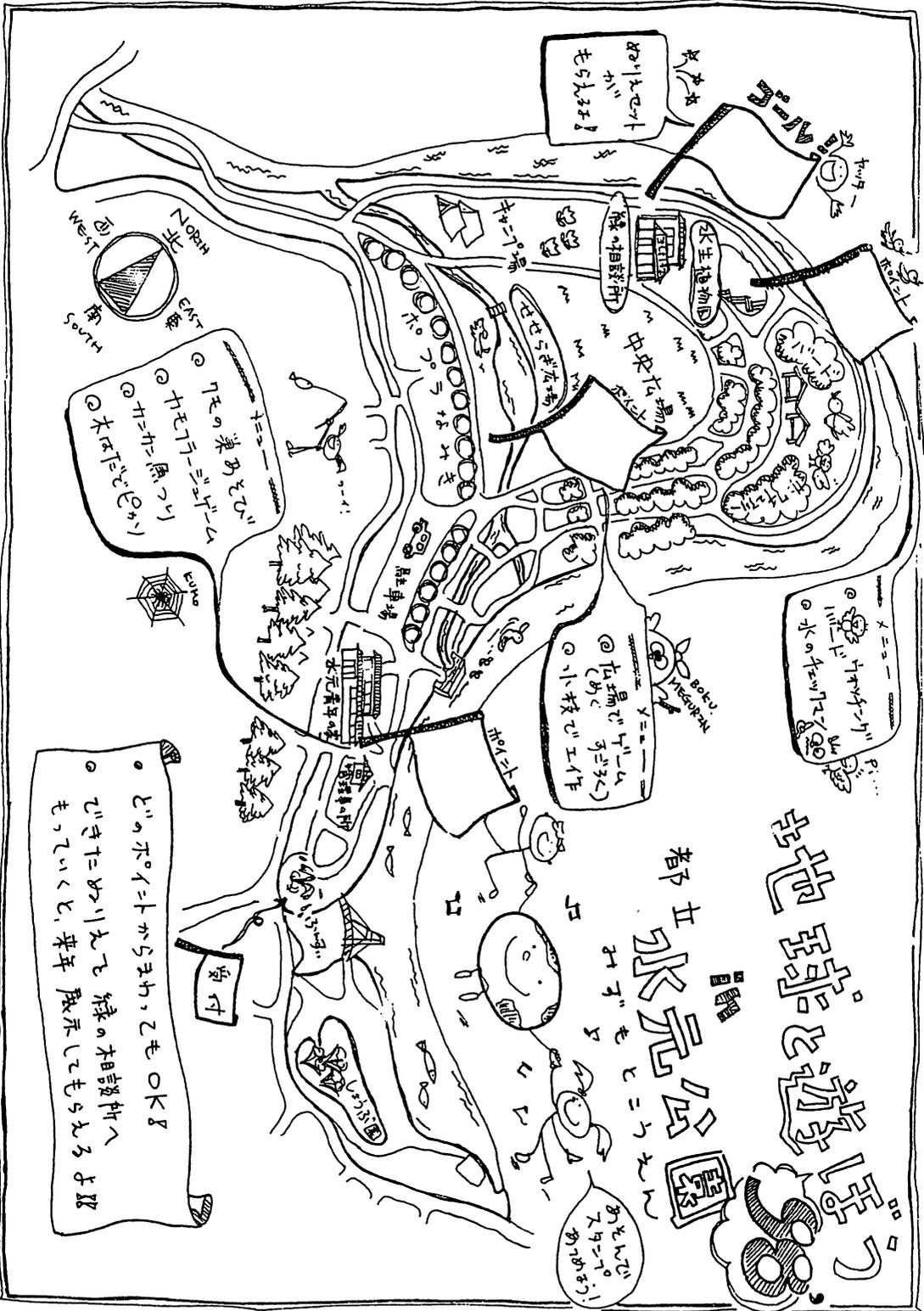
さらに、ぬりえを完成させて、緑の相
 談所へもっていくと、1月15日まで
 展示してもらえます。



主催 「地球と遊ぼう'98」実行委員会

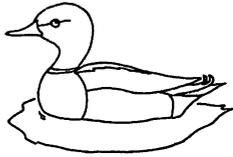
共催 水元公園緑の相談所・全国愛鳥教育研究会
 後援 東京都
 協賛 葛飾区・高砂エコクラブ・ジュニアアドベンチャークラブ拓海会
 (社)東京都建築設備設計協会・(財)日本鳥類保護連盟
 東京都環境学習リーダー連絡会

5. 「スタンプマップ」(当日、来園者への呼びかけ配布、参加者配布物)



6. 「野鳥ぬりえセット」 (参加賞、およびぬりえ展示会応募用紙)

マガモ

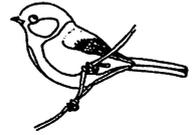


やせいのとりなのに、くびには白いくびわのようがあるんだよ。おかしいね。



カケウ

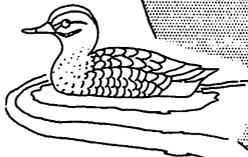
えさを食べおわると、いつもこんなふうにして、はねをかかしています。



シジュウカラ

黒いネクタイわかるかな。にわにもあそびに行くからよろしくね。

カルガモ



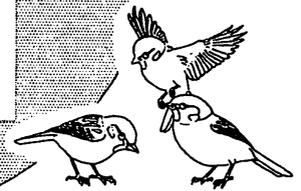
夏になると、かわいいヒナをたくさんつれておよいでいるよ。

地球と遊ぼう'98
身近な野鳥たち

[ぬりえセット]

イラスト 神戸幸幸
監修 全国愛鳥教育研究会
企画 エコ・フレインズ・システム
制作 フランニングオフィス ひるぎ 01998
TEL & FAX 03-3753-6484

スズメ



いつもみなれているとただ、ぬりえになるとかけるかな。

- 主催：地球と遊ぼう'98実行委員会
共催：水元公園緑の相談所、全国愛鳥教育研究会
後援：東京都
協賛：葛飾区、高砂エコクラブ、ジュニア・アドベンチャークラブ拓海会、(社)東京都建築設備設計協会、(財)日本鳥類保護連盟、東京都環境学習リーダー連絡会

----- キ リ ト リ -----
ぬりえ展示会応募券

ひとことメッセージ	
お名前	とし
	さい

保護者のみなさまへ

本日は、私どもの主催する体験型環境学習プログラム「地球と遊ぼう'98 水元公園」にご参加いただき、ありがとうございました。しかし、このプログラムはまだ終了していません。ようやく自然と遊び、身近な環境に関心をもつ楽しさのひとつを知ったに過ぎません。

これからは、保護者のみなさまが、お子様といっしょに楽しみを発見していく番です。今回参加賞として選んだぬりえの野鳥は、水元公園の水辺でゆっくり見られるものと、家のまわりのどこでも見られるスズメです。お子様といっしょにもう一度じっくり観察してみてください。そして、保護者のみなさまもいっしょにぬりえを完成させてみてください。

ぬりえの展示申し込みにくる時、そして、展示された作品をご家族、ご近所のみなさまと見学にきた帰りには、ぜひまた水元公園の自然を楽しんでみてください。そして、12月13日の遊びのひとつでも思い出していただければ幸いです。

実行委員長 小野紀之

〈ぬりえ展示会の応募方法について〉

- ・ぬりえは、本などを写すのではなく、なるべく自然のものをゆっくり観察させて、ぬらせてあげてください。
- ・特に小さなお子様には、自由な発想で、自分の好きな色を使って、自由にぬらせてあげてください。

- ◎ぬりえの応募は、一人1点に限らせていただきます（必ず、本紙の応募票を作品に貼ってください。小学生以下の作品を優先展示しますが、それ以外の方の応募も歓迎します）
- ◎展示会場は、十分にスペースを用意していますが、応募多数の場合は、展示期間中に展示替えを行なうことがありますのでご了承ください。
- ◎展示終了後、返却をご希望の方は、返送料を受付の際、お支払いください。

展示受付場所と受付期間

場所 水元公園緑の相談所（郵送などでは受付けていません。直接ご持参ください）
 期間 平成10年12月13日～平成11年1月7日 9:30～16:00
 （ただし、年末年始、月曜日など相談所の定休日は除きます）

地球と遊ぼう'98『やちょうぬりえ展』

展示期間 平成10年12月15日～平成11年1月15日（相談所休日は除く）
 展示会場 水元公園緑の相談所
 ご家族でぜひ見学にいらしてください。

ぬりえ展示会申込用紙（こちらの面は見えないように、展示希望のぬりえの下に貼ってください）

応募者住所 〒 _____ Ⅷ _____ (_____)	
保護者氏名	この作品の返却（どちらか1つを） 要 ・ 不要

© GOUDO, HIRUGI 1998



マガモ

7. 一般参加者 居住地一覧

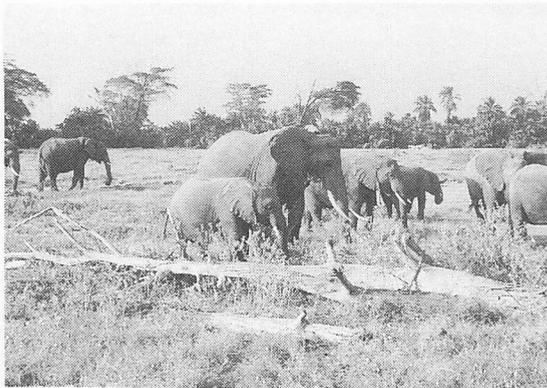
この資料は、参加賞をお渡しする際の受付リストおよび「野鳥ぬりえ展示会」申し込みリストから作成しました。

東京都 (葛飾区 足立区 江戸川区 墨田区
荒川区 文京区 新宿区 大田区
世田谷区 日野市)
千葉県 (松戸市 市川市 流山市 柏市
八千代市 東葛飾郡)
埼玉県 (三郷市 八潮市 草加市)
神奈川県

上記の通り、1都3県からの参加者がありました。

アフリカの草原はウシ（？）の宝庫

事務局 箕輪 多津男

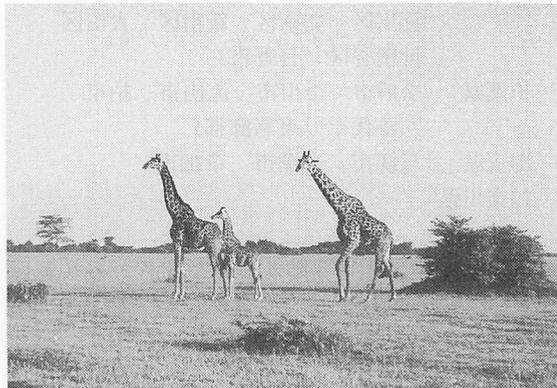


アフリカ象の移動

アフリカ大陸の草原（サバンナ）を思い起こす時、真っ先に浮かぶ動物と言えばアフリカゾウであったり、ライオンやチーターであったり、キリンであったり、或いはシマウマ類（グラントシマウマやグレビーシマウマ）であったりするかもしれませんが、しかし、大型哺乳類のうち最も種類が多いのは、ウシの仲間なのです。

という、おや（？）と思われる方があるかも知れません。現地を訪れた方や、映像などでアフリカのサバンナの様子をご覧になられた方も多いと思いますが、その際、角の生えたシカをたくさん見たという印象を持たれなかったでしょうか。実は、あれはシカ科ではなく、すべてウシ科の動物なのです。

アフリカ大陸においては、北アフリカの一部（チュニジア周辺）にわずかに1種、アカシカというシカ科の動物が分布していますが、それ以外、即ちサハラ砂漠以南には野生のシカ科の動物は1頭も生息していません。



キリンの親子

アフリカスイギュウやヌーなどは、見るからにウシの仲間に見えますが、インパラやガゼル類（トムソンガゼルやグラントガゼル）、ゲレヌク、オリビ、或いはデイクデイクなどは、一見するとその体型や体色からシカのイメージが漂っています。しかしながら、それらもすべてウシ科の動物です。

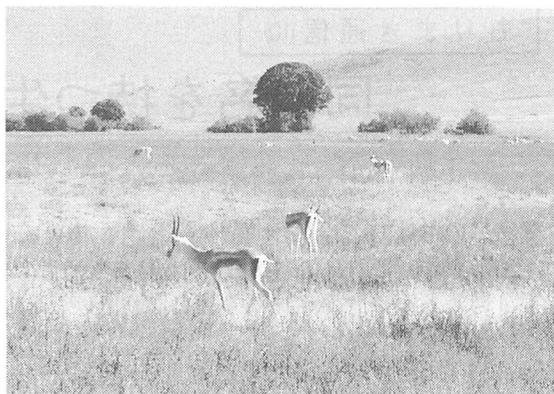
ウシ科の動物とシカ科の動物の最も顕著な違いは、角にあると言っていいでしょう。シカ科の動物の角はその多くが枝別れをしたような形状で、しかも一般的に毎年生え変わります。ところが、ウシ科の動物の角は頭骸骨の一部として直結しているため、一生その角が生え変わることがなく、また枝別れをすることもありません。またこの角は、シカ科の動物においてはトナカイを除き、オスにしか生えることがありませんが、ウシ科の動物の場合には、メスにも生える種がいくつもあります。

それ以外にも両者の違いは、一部の歯の並び（上の門歯が無いことは共通だが、犬歯の有無等が違う）等にも現れています。

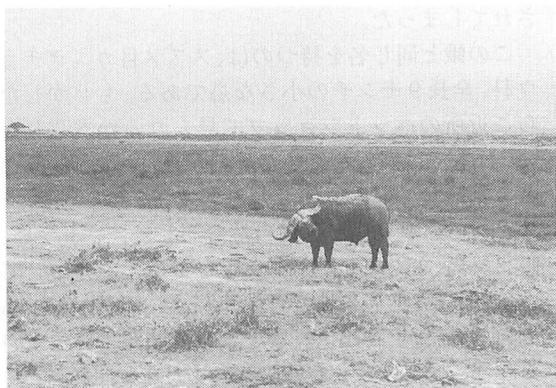
これらのことから、ユーラシア大陸に多くのシカ科の動物が生息しているのに対して、アフリカ大陸の動物相がかなり異なっていることが窺い知れます。

日本における野生のウシ科の動物としては、カモシカ（亜種ニホンカモシカ）が挙げられます。アフリカ大陸のウシ科の動物とは、その外見だけからするとかなり異なる印象を受けますが、種としては大変近い関係にあるわけです。それ故か、カモシカの姿を見ると、なぜか私はアフリカのサバンナを思い浮かべてしまいます。（飛躍し過ぎでしょうか。）

多くのウシ（！）たちが駆け巡るアフリカの壮大なサバンナ。近年特にその保全が危ぶまれてきていますが、その光景が永遠のものであるよう、心から願うばかりです。



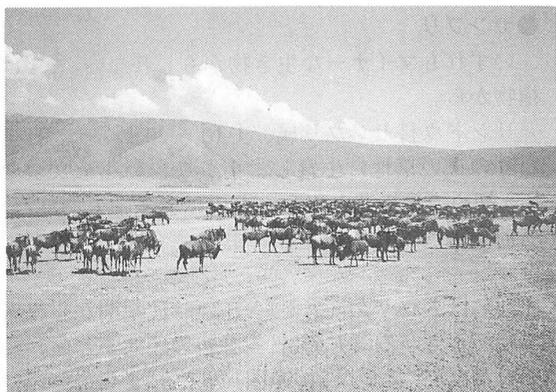
トムソンガゼル



アフリカスイギュウ



グラントガゼル



ヌーの群れ



(コーク) ハーテビースト

もりまき通信(10)

同じ名を持つ生き物たち (その2)

自然観察指導員 森 真 希

●和名の付け方

本誌「愛鳥教育No. 56」掲載の「もりまき通信(6)」で「同じ名を持つ生き物たち」を取り上げたところ、友人・知人から

「他にもこんなを知っているよ。」

と、いくつか情報を頂いた。聞くところによると、和名というのは、いわば「つけたもん勝ち、早いもん勝ち」らしい。その生き物の分野の学会等で「この生き物にはまだ和名がついていないからこうつけました。」

と発表したら決まってしまうのだ。命名者の趣味や好みが盛り込まれても当然とのこと。特に無脊椎動物には、面白い和名が多いとか。それでは今回の生き物たちを私の体験を交えながら紹介させていただこうと思う。

●ベニスズメ

今森光彦さんの写真集「昆虫記」(福音館書店)に載っていた大きなピンクの蛾の写真。私が初めてこの生き物の存在を知った本がこれだった。日本にこんな蛾がいるんだ、と少し驚いた。

それからしばらくして、私は、かつてのフィールド千葉県流山市で、仲間と一緒に、夏の夜の昆虫観察を目的に樹液めぐりをしていた。総合運動公園の近くに立ち並んでいたクヌギの樹皮からは、夏らしい樹液の香りがただよっている。夜の酒場と化した幹肌に、カブトムシやカナブンなどの甲虫たちが群がりお食事中。私は夢中でシャッターを切っていた。

ファインダーを無心に覗いていたら、ブーンと何かが耳をかすめていった。甲虫にしては軽い音だ。周りを見ると1匹のピンクの蛾が、飛びながらストローのような物(ふん)を伸ばして酒盛りに参加しようとしている。

「あ～！ベニスズメだー。」

夜中にもかかわらず、御近所の迷惑をよそに大きな声を出してしまった。

写真でしか見たことのない生き物と同じ空間にいることの感動というもの、いつでも新鮮であ

ると思う。今ではさすがに大騒ぎをしなくなったが、いつ出会ってもその美しい桃色の体には注意を惹かれる。

鱗翅目スズメガ科、平地から山地にかけて日本に広く分布している。翅を開くと約6センチ。決して珍しい種ではないが、彼らが好む樹液の出る木が全国各地で減少しているのも事実。残念ながら私が彼(彼女?)と初対面を果たしたそのクヌギも切り倒されてしまった。

この蛾と同じ名を持つのは、スズメ目カエデチョウ科、全長9センチの小さな鳥である。もしかしたらご近所のペットショップで見られるかもしれない。日本では飼われていたものが逃げ出し、河原などで繁殖している個体もいるという。インド、パキスタン、ジャワ島などに自然分布し、スマトラ島、ルソン島、ハワイ、フィジーなどでは人為分布しているらしく、世界各地で野生化している逞しい小鳥である。帰化生物が色々なところで問題になっている昨今、ベニスズメもそのうち「大きな問題」として取り上げられる日がくるのか気になるところである。

●センブリ

いずれもマイナーな生き物かもしれない。まずは植物から。

リンドウ科センブリ属、丈10～20センチ、日当たりのよい草地に生育し、小さな白い花を咲かせる。初めてその花と出会ったのは奥多摩であった。名前を調べるために地面に這いつくばって撮影した。

別名はトウヤク(当薬)、江戸時代初期から腹痛に使われている漢方で、日本独自の民間薬といわれている。漢字で千振、1000回振り出しても苦いということに由来し、かなり苦味の強いことを表している。

振り出すというのは、今で言うティーバックで行う動作のこと。出会った時に正体が分かっていたら、どれだけ苦いのか自分の舌で確認してみたかったものだが、なかなか再会できないでいる植物の一

つになっている。

そして昆虫のセンブリ。ある年のゴールデンウィークに山形県小国町を訪れた。キャンプ場のある施設の周辺にいくつかのため池があり、そこにはミツガシワが群生していた。早春の東北の山中で観察できる昆虫は数少なく、メインはギフチョウであった。散策をしていると黒い羽を持つカゲロウの仲間のような3センチくらいの虫が低い草にとまっていた。それがセンブリであった。昆虫に詳しい先輩が

「おや、こいつは。」

と手に取って解説してくれた。

体も翅も艶のある黒色で、他のカゲロウ類とはひと味違う雰囲気を持っている。残念なことに手元にある図鑑には殆ど紹介されていないので細かな生態は分からないが、同じ季節に3回程同じ場所に行き、毎回センブリに会うことができた。今年のゴールデンウィークも彼らはあそこにいたんだろうかと、ふと東北が気になってしまった。

●ホトトギス

カッコウ目カッコウ科、日本産のこの科の仲間は姿が見えなくてもオスのさえずりで種名がばれてしまう鳥である。しかし、姿形は皆そっくりさんで、カッコウ、ツツドリ、ジュウイチ、ホトトギスが黙って並んでいたら、どれが何か当てるのは難しいかも知れない。いずれも夏鳥として日本に渡来し「托卵」という特殊な生態を持っていることはよく紹介されている。

ある山中でホトトギスの鳴き声がしてきた。他の仲間に対してどんな反応をするのか気になり、私は手笛でカッコウの鳴き真似をしてみた。するとしばらく沈黙が流れた後、先程鳴いていた場所よりも、かなり自分に近付いてきて再び鳴き始めた。しかし姿は見えない。私は再度カッコウの鳴き真似を試みる。ホトトギスはまた位置を変えて接近して鳴き始めた。明らかに私の鳴き真似を意識しているようだ。こちらの勝手に彼を騙して余計なエネルギーを使わせるのも思いやりのないことなので、私は静かにその場を離れた。

なぜホトトギスがカッコウの鳴き真似に反応して接近してきたか、本当の理由は本人（本鳥？）に尋ねてみないと分からないが、生態の似ているもの同士が御近所にいることをいやがってのことか、それとも鳴き真似をしている変な生き物を見に来たの

か、謎と疑問がまた増えてしまった。

耳を楽しませるホトトギスの次は、目を楽しませるホトトギスである。ユリ科ホトトギス属、山地のやや湿ったところに生育する多年草。花の斑点を鳥のホトトギスの胸の斑点に見立てたことに由来すると言われている。

上向きに面白い形の花を咲かせるこの植物は、よく庭の演出にも使われている。同じ仲間には、ヤマホトトギス、ヤマジノホトトギス、タマガワホトトギス、台湾ホトトギスなどがある。

ある夏に岩手の早池峰山に登った時、ベースキャンプを張った場所の近くに黄色いタマガワホトトギスが咲いていた。喜んで写真を撮り、後輩達と山頂へ登った。そして下山して戻ってみると、黄色の花が咲いていた場所が株ごとなくなっていたのだ。心無い野草マニアの盗掘が山野草の生息域を脅かしていることは耳にしていたが、現場を目の当りにして、決して遠いところの話ではなかったことを実感した。

●サワラ

動物が好きな方は魚、植物が好きな方は木を思い起こされるだろう。まずは魚から。

サバ科サワラ属、全長1メートルほどになる。魚へんに春で鱭、漢字が示す通り4～5月が産卵期で、産卵直前のものが最も美味しく、春を代表する魚の一つと紹介されていることが多い。我が家でも旬の時期は切り身をバターソテーにしたものが食卓にあがる。

ブリと同様に出世魚で、大きさを呼び名が変化する。関西地方では、サゴシ→ヤナギ→サワラの順で呼ばれている。

スーパーマーケットなどで売られている魚は、既に切り身となっている場合が多い。釣りなどを趣味にしているか、食品加工の仕事に携わるか、港の市場に行くかしないと、食用とされている魚の泳いでいる時の姿にお目にかかることは難しい。特に大形のものは、丸のまま店頭で並ぶことは少ない。子供に魚を書かせたら切り身を描いたと言う話もある。水族館に行けば泳ぐ魚を見ることもできるだろうが、普段食卓でお世話になっている魚達に接触する機会も作っていきたくものである。

木のサワラは樫と書く。ヒノキ科の針葉樹で、樹種としても材としてもヒノキに非常に似ているが、「葉の裏の白い線がYの字がヒノキ、Xの字がサワ

ラ」と先輩に教えて頂いた。

サワラの材はヒノキと同様に水に強く、ヒノキより軽いと言われている。香りが控えめなので、おひつなどの食品関係の用途に使われる。このサワラ、1991年10月16日付けの読売新聞に、「サワラの葉に“殺ダニ”成分」という見出し付きで紹介されていた。森林総合研究所によると、抽出成分ピシフェリン酸が市販の殺ダニ剤に近い効果を持ち、さらには人体に副作用がないとのこと。生物の持つ可能性を強く感じる一件であった。

●スギ

「森の博物館／日本人として知っておきたい木30種」(小学館)という本がある。その30種のトップバッターにスギが紹介されている。著者の稲本正さんは、その冒頭で、「日本人が中世から現代まで一番たくさん使ってきた木が杉であり、また一番たくさん植えてきた木が杉だ。」

とおっしゃている。日本で最も身近で最も多く利用され、人々の認知度もかなり高い植物と言えるだろう。新聞記事では「スギ花粉症」や「ヒノキチオール」、「世界遺産屋久島の屋久杉」などで頻繁に掲載されている。話題のネタが多い生き物なので、詳細は他に譲ることにしよう。

あまりにも有名な木のスギと同じ名前の生き物は、またしても魚である。私が住んでいる鳥取県米子市のお隣に境港市がある。妖怪の並ぶ「水木しげるロード」が大きな観光スポットとなっている。

その近所に「海とくらしの史料館」という博物館施設がある。キャッチフレーズは「水のない水族館」、日本最多の魚の剥製を所蔵しているのが売りものだ。様々な魚類や甲殻類、貝類などが展示されているなかで出会ったのが「スギ」であった。

スズキ目スギ科、全長1.5メートル、世界中の暖かい海に生息している。ものの本にかまぼこの原料と紹介されているが、商品に表示されているのはエソやグチが多く、まだスギと書かれているものは見たことがない。是非スギで作られたかまぼこを食べてみたいものである。

●カモノハシ

「鴨嘴」、その名の通り、鴨のようなくちばしを持つ生き物である。卵を産む哺乳類として、しばしば動物番組でも紹介されている。単孔目カモノハシ

科、体長40～55センチ、尾長10～15センチ、体重1.1～1.6キログラム。オーストラリア東部、タスマニアに生息し、水かきを持つ。湖沼・河川でザリガニやエビなどの小動物を好んで食べている。オスの後足の爪には毒がある。哺乳類としては珍しい特徴が多く、最も原始的な生物として分類されている。いつか野生で生活している彼らに会いに行ってみたいものである。

動物のカモノハシは連想しやすいかもしれないが、植物のカモノハシについては「知っているよ。」

と言ってくれる人は少ないかもしれない。

イネ科カモノハシ属、高さ30～70センチの多年草で、海岸の砂地や海岸近くの湿地に生育する。この植物の花序の形がくちばしのように見えることに由来する。と言っても、ただでさえイネ科の花は地味なタイプが多く識別も簡単ではないので、植物好きの人にも興味を持ってもらいにくい。私もまだちゃんと意識して見たことがない。沖縄と北海道以外の日本各地に分布しているらしいので、海辺に行く機会ができれば「日本にいるカモノハシ」を探してみようと思う。

●ミヤマクワガタ

今も昔も変わりなく子供たち(特に男の子)にとって大きな魅力のある昆虫、カブトムシ・クワガタムシ。近年オオクワガタなどは養殖方法が確立し、自宅で7センチ近くのオオクワガタを育てることも可能になった。夫もクワガタが大好きで、我が家には6本足の扶養家族が2桁になってしまった。

日本産のクワガタは36種いるという。中でもミヤマクワガタは、小さい子供でも姿と名前が一致しやすい特徴のあるクワガタではないだろうか。

この夏、生きている外国産のカブトムシ・クワガタ類の輸入が大幅に解禁された。大半は養殖されたものが出回るらしいが、この解禁が原産地の破壊につながらないことを祈りたい。

男性に人気のあるミヤマクワガタに対して、今度は女性の人気をとりそうな高山植物のミヤマクワガタである。ゴマノハグサ科クワガタソウ属、7～8月に開花し高山の砂礫地に生育する。高さは15～30センチ。平地に生えるクワガタソウの実が兜の鍬形にたとえられたのが由来とされている。

この植物、図鑑によると北アルプスと南アルプスとでは花の色がずいぶん違う。北アの方は淡い紫

系の色、南アは濃いピンク系の色で、地域差としてここまで色彩の違いがある例は珍しいとのこと。分布は東北～中部地方なので、私が今住んでいる山陰では会うことができない。いつかその花を見に山登りをしたいものである。

余談だが同じクワガタソウ属で最も身近なものは帰化植物のオオイヌノフグリなのである。

●シマアジ

まずは海のシマアジから。スズキ目アジ科、漢字で縞鰯。食用魚のうちで最も高値で取引されている高級魚中の高級魚と言われている。名前は体側の中央に鮮やかな黄色縦帯があることに由来する。世界の暖海に分布し南日本に多い。養殖物は4年で体長50センチ、体重3キログラムになる。産卵期は夏であるが、刺身、寿司種、塩焼き、照焼きなどで1年中美味しさを楽しめるとのこと。

養殖は、以前は幼魚を捕獲して生けすで大きく育てて出荷していたが、近年「大分生態水族館」が飼育水の温度を下げてシマアジの産卵を誘発する技術を開発したので卵からの養殖が可能になった。と簡単に書いてしまったが、そのシマアジの産卵を確認するまで水族館の職員の方々の並々ならぬ御苦労があったらしい。どの分野でも一つの技術が確立するまでには、その裏に多くの方々の執念や努力が隠れているものである。

そして空を飛ぶシマアジ。カモ目カモ科、漢字で縞雉。日本では旅鳥として春と秋に見ることができ、特に西日本に多い傾向がある。あまり群れることはないらしい。

オスの繁殖羽は顔に大きな白いラインがあるので分かりやすい。しかし、エクリップスとメスはコガモに瓜二つなので注意して識別する必要がある。今の私のフィールド、米子水鳥公園にも渡りの季節に池に立ち寄ってくれたが、コガモの群れに混じると、まさに一時流行った「ウォーリーを探せ」状態である。私はまだオスの美しい装いを拝見したことがない。次の春にはまた公園に寄り道してその白い長い眉を披露してほしいものだ。

●是非教えて下さい！

前回と今回で出てきた同じ名を持つ生き物に、ちょっとした傾向を感じている。アカザ、ハス、ゴンズイ、オヒョウ、カマツカ、ヒイラギ(前回)、スギ、サワラ、シマアジ(今回)と並ぶと、魚の名前と重複している場合が多いようである。しかも、魚と植物との取り合わせが目立っている。もしかしたら他にも魚と植物とで同じ名前が出てくるかもしれない。

この地球には色々な生き物が住んでいて、しかもその殆どは人間よりも遥かに長い歴史を持つ大先輩たちだ。そして、人が認識している生物なんて極わずか。自分自身未開拓の生物分野は沢山あるので、今後も同じ名の生き物の発見を楽しみにしようと思う。

今回の生き物の情報をお教え下さいました方には、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。他にも情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非お知らせ下さい。お待ちしております。

(P31より編集後記の続き)

「もりまき通信」の森真希さんは、この7月にめでたく第一子を御出産なさいました。

「現在、母乳100%で育雛中ですが、やはり、1～3時間ごとの授乳でなかなかまとまった睡眠時間がとれず、よく自分の母親たちが子育てをこなしてきたな～と思っています。

なぜか、フィールドノートに育児日記をつけはじめたので『愛らしい不思議な生き物』を観察している気分です。」

と、近況を報告してくださいました。自然観察の達人の目には果たしてどのように映るのでしょうか。

短い睡眠時間を割いて今回の原稿を御執筆下さりまして、ありがとうございました。

(染谷)

平成11年度 事業報告

事務局 箕輪 多津男

1. 「愛鳥教育」の発行

- (1) 58号、59号、60号を発行
- (2) 内容
 - ①愛鳥活動の「実践報告」等を掲載。
 - ②論説、エッセイを随時掲載。
 - ③平成11年度講演会、冬期親子探鳥会、後援行事等の報告を掲載。
 - ④書籍紹介等を随時掲載。
 - ⑤故江袋島吉前会長の追悼文を特別掲載。
 - ⑥その他の事項。

2. 観察会・講演会等

- (1) 講演会
期日：平成11年11月12日（金）
場所：東京都生涯学習センター・セミナー室
内容：「野鳥保護団体は、今」
講師：全国愛鳥教育研究会顧問 松田道生氏
- (2) 冬期親子探鳥会
期日：平成12年1月30日（日）
場所：都立水元公園（東京都葛飾区）
内容：初心者親子連れを対象に、自然とふれあうことを目的に実施。

3. 後援・協力行事

- (1) 「地球と遊ぼう'99 イン大田(OTA)ふれあいフェスタ」
平成11年10月23日（土）～24日（日）
平和島公園（東京都大田区）
※公園の自然を活かした体験学習とりサイクル活動
- (2) (財)せたがやトラスト協会 主催
「トラストバードウォッチング」
平成11年12月11日（土）兵庫島河川公園
- (3) 憲政記念館巣箱架け
平成12年12月15日（水）憲政記念館北庭園

4. 常務理事会

平成11年4月27日（火）、5月28日（金）、
6月24日（木）、8月18日（水）～19日（木）、
9月28日（火）、10月29日（金）、11月25日（木）、
12月20日（月）、平成12年1月24日（月）、
2月22日（火）、3月27日（月）

5. 故江袋島吉前会長の通夜及び告別式

通夜：2月7日（月）（公益社用賀会館）
告別式：2月8日（火）（同上）

6. その他の行事・審査会への参加

- (1) 第53回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい（香川県）
平成11年5月16日（日）武石理事
- (2) 愛鳥週間ポスターコンクール及び全国野生生物保護実績発表大会審査会（環境庁）
平成11年10月15日（金）江袋会長
- (3) 全国野生生物保護実績発表大会（環境庁講堂）
平成11年11月29日（月）江袋会長
- (4) 神奈川県環境教育研究発表会（横浜県民活動サポートセンター）
平成12年1月19日（水）島田常務理事

平成11年度 収支決算報告

事務局 箕輪 多津男

(単位：円)

【収入の部】

項目	決算額
会費	471,000
売上	181,990
寄付金	26,000
参加費	8,600
連盟・補助金	0
受取利息	62
前期繰越収支差額	565,177
収入合計	1,252,829

【支出の部】

項目	決算額
会誌発行費	443,000
通信運搬費	81,470
会議費	12,371
交際費	25,750
交通費	0
講師謝礼	10,000
支払手数料	315
雑費	2,000
連盟・支払金	39,690
次期繰越収支差額	638,233
支出合計	1,252,829

前期繰越収支差額	565,177
当期収支差額	73,056
次期繰越収支差額	638,233

上記の通り報告いたします。

平成12年3月31日
会計 染谷 優 児
事務局 箕輪 多津男

監査の結果上記の通り相違ないことを認めます。

監事 徳 竹 力 男
監事 村 口 末 弘

会長人事のお知らせ

故江袋島吉会長の逝去に伴い、新会長人事につきまして常務理事会で検討を重ねて参りましたが、杉浦嘉雄副会長が新会長に就任することになりました。

なお、新人事につきましては、次号で正式に発表いたします。

<後援行事の御案内>

『学校ビオトープシンポジウム in 中部』

全国愛鳥教育研究会の後援協力事業として、標記のシンポジウムが開催されることになりました。環境教育の今後の展開に向けて、大きな鍵の一つになると思われる「学校ビオトープ」をテーマとし、その基本的な理念と具体的な実践事例等を踏まえ、総合的な理解が得られるよう企画されたものです。奮ってご参加下さい。また、各方面に広くお知らせいただければ幸いです。

記

1. 主催 学校ビオトープ・ネットワーク

2. 共催 ビオトープを考える会

3. 後援

三重県教育委員会、岐阜県教育委員会、蒲郡市教育委員会、幸田町教育委員会、日本環境教育学会、財団法人日本生態系協会、(社)日本環境教育フォーラム、全国愛鳥教育研究会 他

4. 趣旨

2002年からの教育課程改正を前にして、地域の教育力を活かしたさまざまな取り組みが試みられています。

教育の場に身近な野生の生き物がくらする場を保全・創出する、いわゆる「学校ビオトープづくり」も盛んに行われるようになってきました。

しかしながら、学校ビオトープの健全な育成を図る基盤整備が成されているとは言えません。

このような状況を踏まえ、中部地区における学校ビオトープの発展のきっかけとすべく「学校ビオトープ・シンポジウム」が企画されました。

5. 日時

〔第1日〕平成12年9月22日（金）

9：30～17：00

◆ビオトープ見学会

〔第2日〕平成12年9月23日（土）

10：00～16：00

◆学校ビオトープシンポジウム

6. 場所

〔第1日〕ビオトープ見学会

➡ 愛知県幸田町、蒲郡市

〔第2日〕学校ビオトープ・シンポジウム

➡ 名古屋市教育館

（名古屋市教育センター分館）

〒460-0003 名古屋市中区錦町3-16-6

*地下鉄「栄」駅下車

2番、3番、10B番出口すぐ

*名鉄瀬戸線「栄町」駅下車すぐ

*市バス「栄」下車すぐ

7. 日程

〔第1日〕ビオトープ見学会

会場：愛知県幸田町、蒲郡市

案内講師：渥美守久氏

（全国愛鳥教育研究会 副会長）

9：30 JR蒲郡駅前集合

（貸切バスにて移動）

見学先：○幸田町立深溝小学校

○ソニー幸田 企業緑地

○蒲郡市立形原北小学校

○蒲郡市立西浦小学校

17：00 JR蒲郡駅前解散

〔第2日〕学校ビオトープ・シンポジウム

会場：名古屋市教育館

(名古屋市教育センター分館)

- 9：30 受付
 10：00 開会・代表者挨拶
 10：30 パネル討論
 コーディネーター：長谷川明子氏
 (ビオトープを考える会会長)
 12：00 昼食
 13：00 特別講演(特) 池谷奉文氏
 (財)日本生態系協会 会長)
 14：45 特別講演(監) 山田辰美氏
 (富士常葉大学 助教授)
 15：45 質疑応答・閉会

8. 参加費

〔第1日〕ビオトープ見学会 ----- 5,000円
 (バス代・弁当代)

〔第2日〕学校ビオトープ・シンポジウム
 ----- 1,000円
 (資料代)

9. 定員

〔第1日〕ビオトープ見学会 ----- 40名

〔第2日〕学校ビオトープ・シンポジウム
 ----- 200名

10. 申込先

*学校ビオトープネットワーク事務局 (NPO法人)

〒420-0031 静岡市呉服町2-2-22

呉服町ビル2F

ふるさと研究所内

TEL. 054-653-0107

FAX. 054-653-0108

編集後記

「地球と遊ぼう'98」は、小野紀之常務理事が他団体や行政当局との間を取り持ち、「地球と遊ぼう'98実行委員会」を組織して実施したものです。

一団体ごとのイベントでなく、しかし単なる寄せ集めでもない、都立水元公園という一般市民が多目的に利用する空間・環境に応じたイベントの在り方として一石を投ずるものではないかと思えます。

なお、昨年、既に「地球と遊ぼう'99」が実施されておりますので、これについては別の機会に報告していただくことを考えております。

事務局を担当していただいている(財)日本鳥類保護連盟職員である箕輪多津男氏にも、このところ連続して寄稿していただいています。回が重なるごとにシリーズとしての可能性を感じています。

『学校ビオトープ・シンポジウム』が開催されます。渥美守久常務理事が案内講師を務められます。第1日は平日ですが、第2日は秋分の日で祝日でもあります。奮ってご参加下さい。

(P27に続く)

愛鳥教育 No.60

平成12(2000)年8月31日

発行人 杉浦嘉雄
 発行所 全国愛鳥教育研究会
 住所 〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5
 第10田中ビル3F
 (財)日本鳥類保護連盟内
 電話 03-5378-5691
 FAX 03-5378-5693
 会費 3,000円
 郵便振替 00180-7-12442
 印刷所 祐文社